

《小学生の部》

優秀作（国務大臣・国家公安委員会委員長賞）

大阪府大阪市立丸山小学校

3年 中西 広

やさしい横だん歩道

ぼくのおばあちゃんは、目が見えません。生まれつきではなく、七年前に運転めんきょうしょうを返のうして、五年前には完全に見えなくなってしまったそうです。今まで目が見えていたので、家の中での生活はこれまでとあまり変わらずに過ごしています。けれど、一歩外に出ると、とてもこわいそうです。近所のスーパーまで行くのに、しん号を一つこえていかないといけません。交差点まで来てもしん号が見えないので、何度もしん号を見送って、誰かが来たらその人といっしょに渡るそうです。ぼくがそばにいたら、おばあちゃんのことをたすけてあげられるのになといつも思っていました。

ある時、ぼくの家近くの横だん歩道をわたっていると、音が鳴っていることに気がつきました。お母さんに聞くと、二しゅるいの音があり、目の不自由な人のために、しん号が青になったかどうか分かるようになっていたんだと教えてくれました。音のちがいをよく聞いてみると、「カッコウ」と「ピヨ」の二しゅるいの音があることがわかりました。ぼくは、さっそくこのことをおばあちゃんに教えてあげました。そしておばあちゃんといっしょに音をかくにんしながら、近所の横だん歩道をわたりました。わたりおわったらおばあちゃんがとてもよろこんでくれたので、ぼくもうれしくなりました。

音が鳴る横だん歩道について調べてみると、交通量の多い少ないで音のちがいを出したり、東西を走る道路と南北を走る道路で音のちがいを出したりして、どちらの音になったらわたればいいのか分かるようになっていました。また、大きい交差点では、「カッコー」と「カカッコー」、「ピヨ」と「ピヨピヨ」といったように、道路のこちらがわとあちらがわで出す音に少しちがいをつけることで、進む方向がわかりやすくなっているところもありました。

全国の横だん歩道には、音が鳴らないところもまだたくさんあるそうです。ぼくは、おばあちゃんが安心して外を歩けるように、また、おばあちゃんのように目が見えない人が一人でも安心してわたれるように、目が見えない人にとって、「やさしい横だん歩道」がもっとたくさん増えてほしいなと思いました。